

掛川市立佐東小学校

静岡県埋蔵文化財センター

令和6年7月2日(火)

出前授業レポート

「道具利用の説明が当時の人々の生活とつながる内容で、子どもたちは貴重な体験となりました。」

掛川市立佐東小学校の6年生31人が、当時の人々の暮らしを体験することを目的に、土器の分類、石器の試し切り・火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験

縄文土器・弥生土器・須恵器の3つの土器の特徴を説明した後、班ごとの分類作業に入りました。縄文土器は簡単に分けることができましたが、弥生土器と須恵器の区別が難しく、完形土器と土器片を見比べながら分けていました。20分という短時間での分類でしたが、どの班も3種類に分類することができました。



「弥生土器と須恵器の分類が難しかったけれど、ほとんど合っていてうれしかった。」



石器の試し切り体験

金属が日本に伝わる前の時代、土を掘ったり、木を切ったりするとき、石を加工して利用していたことが分かったところで、黒曜石で紙や野菜を切ってみました。とてもよく切れることにおどろいていました。



「鋭い刃で野菜が切れて驚いた。思ったよりもきれいに切れた。」



火起こし体験

誰ひとり火起こしの経験がなかったことと、火起こしの時間が20分しかないことから、班で1回着けばいいかなと思いながら始めました。弾み車を調子よく回し、火種を作ることができても、火種をスプーンですくうとき慌ててしまい、せっかくできた火種を火口にのせることができなくて、火種がなくなってしまうこともありましたが、どの班も1回は火を起すことができました。火が起きたときはうれしそうでした。



「グループで協力して火をつけることができてうれしかった。煙が出たときはうれしかった。」



先生方の感想

「実体験を通して学ぶことができ、当時の時代背景を考えることができました。また、希望した体験を全て行うことができ、充実した活動となりました。体験をするにあたり、道具利用の説明が当時の人々の生活とつながる内容で、子どもたちは貴重な体験となりました。限られた時間の中で様々な体験をさせていただきありがとうございました。」

